

阪神・淡路大震災報告

—— 近代美術館被害状況 ——

1995. 1. 17

兵庫県立近代美術館

は じ め に

平成7年1月17日早朝、突然襲った大地震は、兵庫県立近代美術館の建物と所蔵作品に大きな被害をもたらしたばかりでなく、美術館活動のすべてを断ち切ってしまいました。当館にかぎらず、阪神地区の美術館・博物館はそれぞれに甚大な被害を受け、日本の美術館の歴史に残る大災害となりました。

被災直後から、文化庁・全国美術館会議をはじめとする多くの美術館関係者のご支援をいただきました。緊急の救援活動、その後に展開された長期的支援、組織的な被害調査など、こうした活動もまた、日本の美術館にとっては新しい体験でした。

そこで、当館の被害を正確に記録し、広く後世に伝えることが、今後の防災対策と災害対策の一助になると考え、ここに震災報告書を作成することとしました。本書では、各展示室、収蔵庫での被災状況を詳しく示すとともに、当館ニュース『ピロティ』紙上や年報で、これまで段階的に発表してきた報告を再録しました。

当館は、平成7年8月15日に一部を開館し、11月11日になって全面的に開館しました。一方、当館の施設を使わない美術館活動は、4月上旬、神戸市内3カ所の銀行を会場に開催した展覧会によって再開し、以後徐々にその範囲を広げてまいりました。震災後1年をへた今日、建物、所蔵作品、活動のすべての面で完全に復旧することができました。この間、ご支援、ご声援を寄せられた多くの方々に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

平成8年3月

兵庫県立近代美術館

目次

被害状況

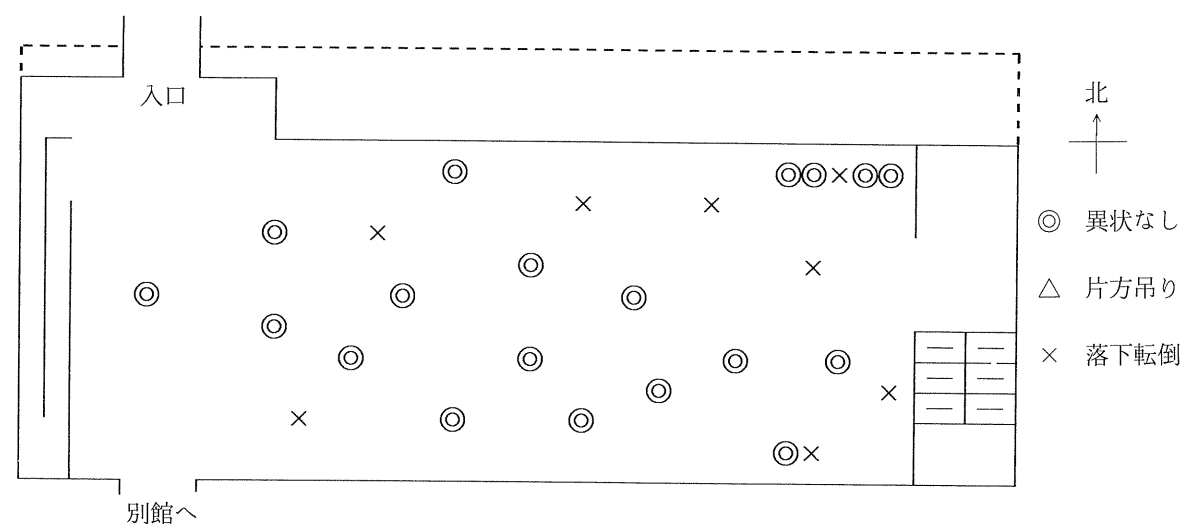
本館	1階（彫刻室）被害状況	4
本館	2階（特別展示室）被害状況	5
西館	1階（現代美術室）被害状況	6
西館	2階（絵画・企画室）被害状況	7
西館	3階（版画室）被害状況	8
東館	1階（小磯良平記念室）被害状況	9
東館	2階（金山平三記念室）被害状況	10
本館	地下（収蔵庫）被害状況	11
西館	地下（収蔵庫）被害状況	12
東館	地下1階（収蔵庫）被害状況	13
東館	地下2階（収蔵庫）被害状況	14
別館1～5階・ピロティ・庭園等	被害状況	15
抜き刷り	ピロティ号外「兵庫県南部地震による臨時休館について」	17
抜き刷り	ピロティNo.94「震災現場からの報告」	18
抜き刷り	ピロティNo.94「震災現場からの報告」	19
抜き刷り	ピロティNo.94「美術品を『まもる』」	20
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」	21
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」	22
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」	23
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」	24
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」写真	25
抜き刷り	平成7年度年報「報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動」写真	26
改善した点		27

場 所	本館 1 階彫刻展示室	構 造	鉄 骨
広さ・天井高	650.0㎡ 4 m	壁 面	総ガラス張り・厚さ12mm
床 面	ピータイル貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	近代の彫刻Ⅱ（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	2 8	8	0	5
絵 画	0	0	0	0
版 画	0	0	0	0
計	2 8	8	0	5

状 態

- ◇本館 2 階を支えていた南北各 5 本の支柱接合ボルトが全部切断され、 2 階部分東側が約45cm南側にずれた。
- ◇展示室周囲のガラスが壊れて散乱した。
- ◇正面入口の大扉も転倒した。
- ◇彫刻作品の多くが落下転倒し損傷した。

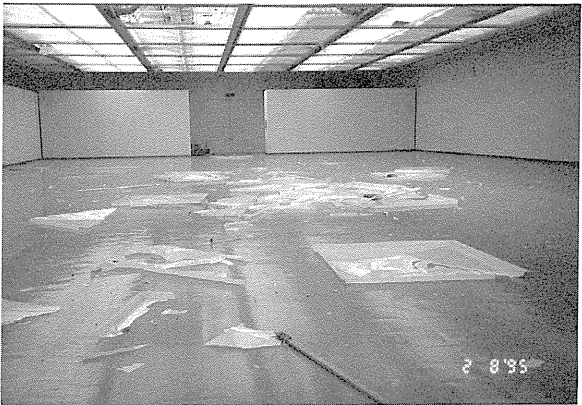
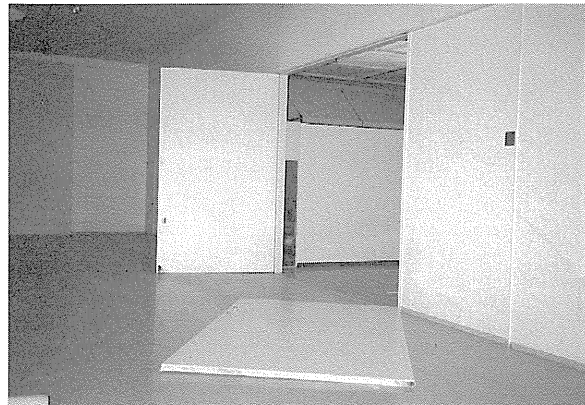
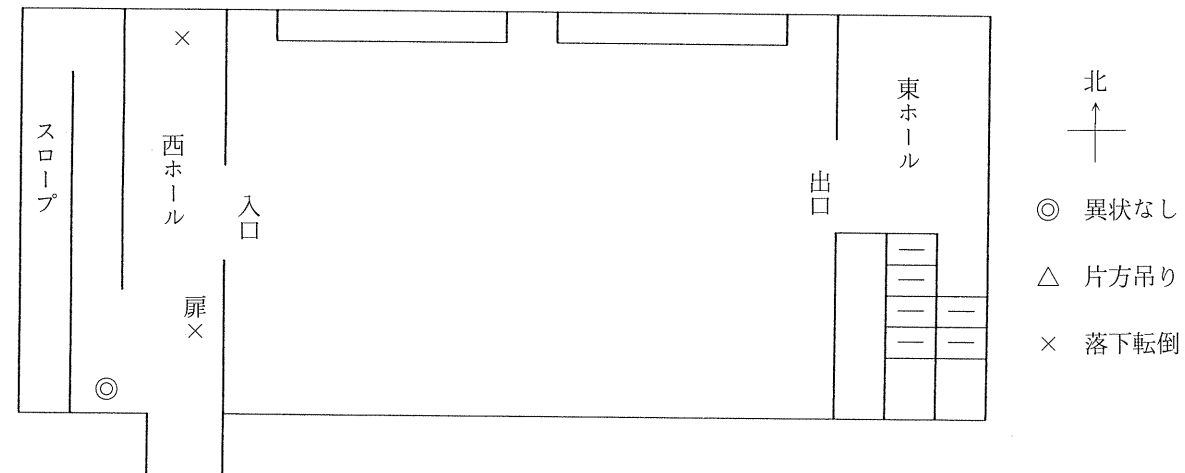


場 所	本館 2 階特別展示室	構 造	鉄 骨
広さ・天井高	1296.0㎡ 5 m	壁 面	発砲コンクリート・モルタルペンキ仕上げ
床 面	ピータイル貼り	天 井	アクリル板による釣り天井、一部石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	休室中			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	2	1	0	1
絵 画	0	0	0	0
版 画	0	0	0	0
計	2	1	0	1

状態

- ◇展示入替え中であり展示作品はなかった。入口ホールに常陳していた作品が落下転倒し損傷した。
- ◇展示室正面入口の 2 × 4 m の入口扉が 2 枚はずれて転倒したが、床に少しキズを付けただけで済んだ。
- ◇天窓の網入りガラスの一部が割れて落下し、天井のアクリルを壊した。
- ◇2 × 2 m の天井アクリルが数枚落下し壊れたが、他に影響はなかった。
- ◇自立式の移動パネル高さ2.7m幅1.8mは倒れる事なく自立していた。

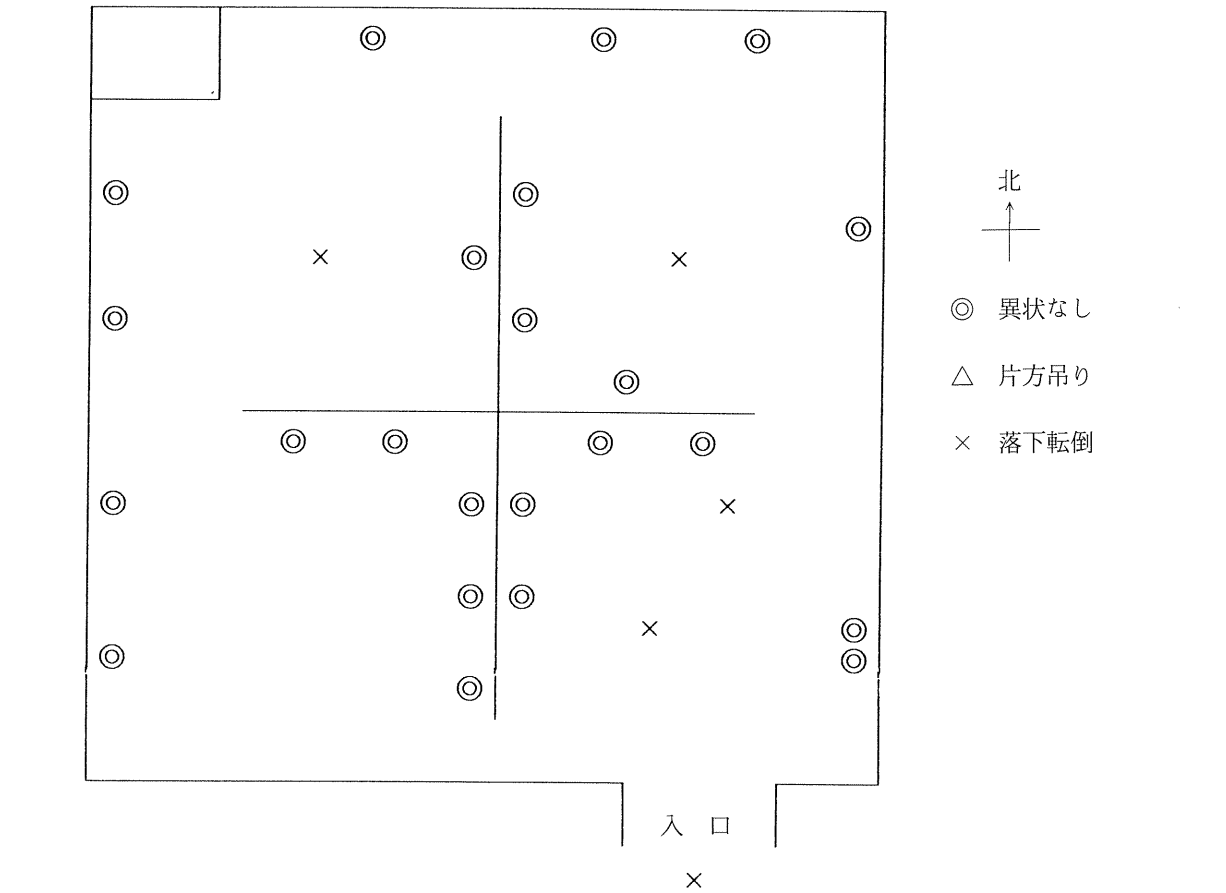


場 所	西館 1 階現代美術室	構 造	鉄 骨
広さ・天井高	298.3㎡ 4 m	壁 面	総ガラス張り・厚さ12mm, 一部コンクリート, 展示面クロス貼り
床 面	クッションシート貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	ヒトのかたち展（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	5	5	0	4
絵 画	1 1	0	0	0
版 画	1 6	0	0	0
計	3 2	5	0	4

状態

- ◇彫刻作品 5 点が落下転倒した。
- ◇壁面の平面作品は全部無事であった。
- ◇空調の吹き出し口のルーバー 2 個がはずれて落下した。

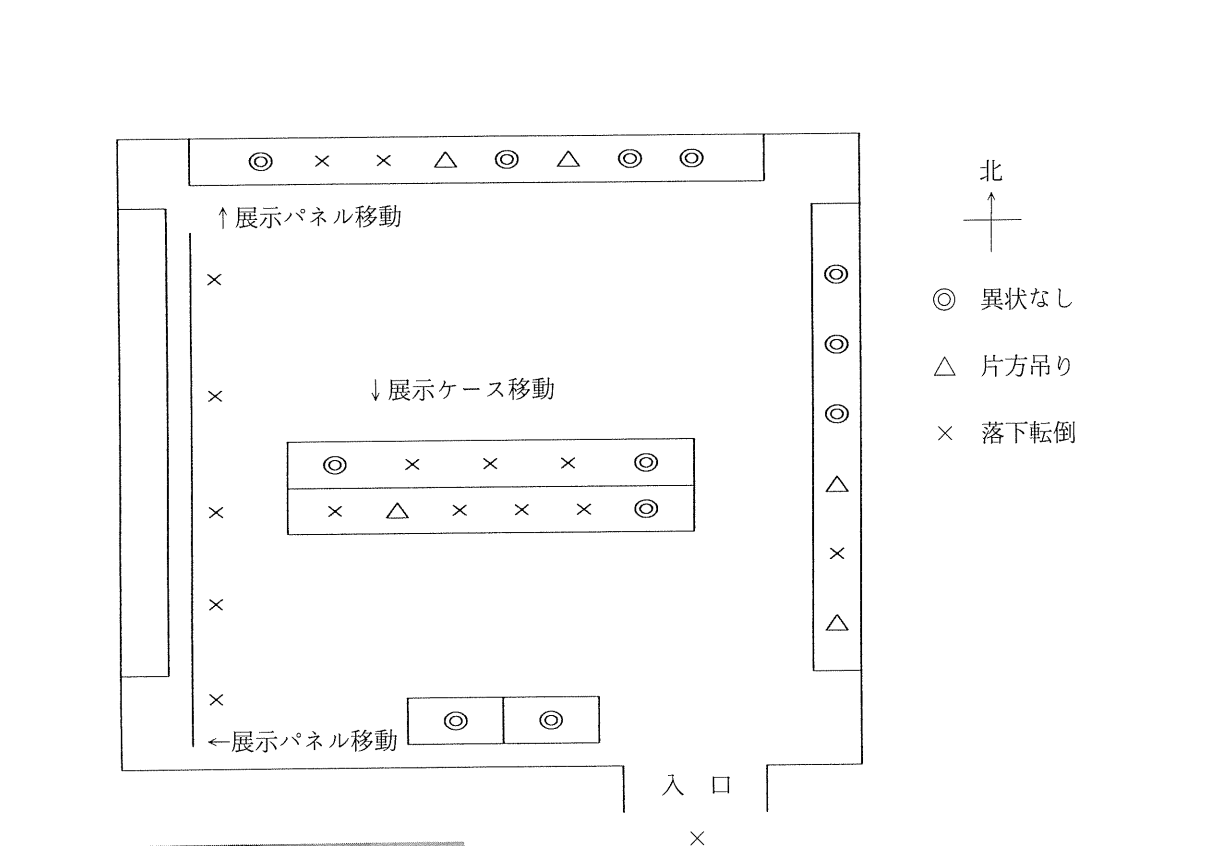


場 所	西館 2 階絵画・企画室	構 造	鉄骨・発砲コンクリート, モルタルペンキ仕上げ
広さ・天井高	469.4㎡ 5 m	壁 面	発砲コンクリート・モルタルペンキ仕上げ, 展示面クロス貼り
床 面	クッションシート貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	洋画の名作展（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	1	1	0	0
絵 画	3 2	1 5	5	0
版 画	0	0	0	0
計	3 3	1 6	5	0

状態

- ◇中央の展示ケースが全体に約10cm南にずれ作品が落下した。
- ◇西壁の大きな油絵が、吊り下げ金具から外れたりワイヤーが切れ落下し額縁が損傷したが、中の作品は無事であった。
- ◇空調の吹き出し口のルーバーや排煙室のルーバーがはずれて落下した。

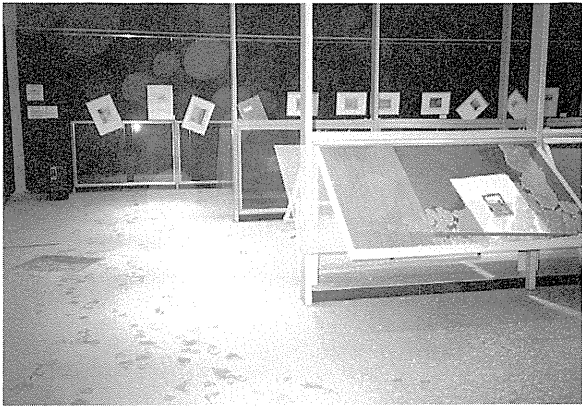
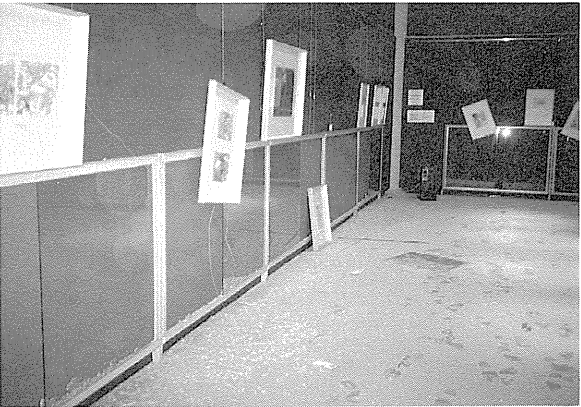
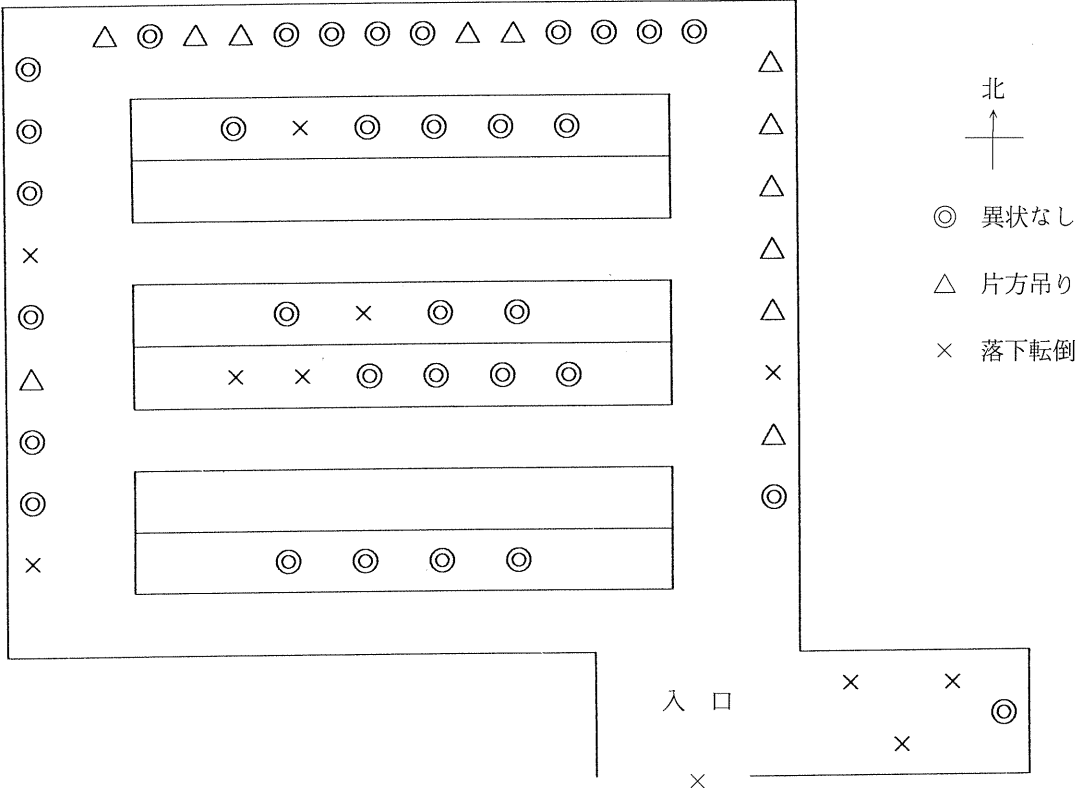


場 所	西館 3 階版画室	構 造	鉄骨・発砲コンクリート，モルタルペンキ仕上げ
広さ・天井高	223.1㎡ 4 m	壁 面	発砲コンクリート・モルタルペンキ仕上げ，展示面クロス貼り
床 面	クッションシート貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	ー都市の幻影ー クリナーとアンソール展（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	5	4	0	3
絵 画	0	0	0	0
版 画	5 1	3	1 2	5
計	5 6	7	1 2	8

状態

- ◇版画展示用斜面台のガラスが鈍角状の粉々に割れた。
- ◇壁面展示の作品は，一部吊り下げ金具から外れ片方吊りになり落下を免れたが，落下し額縁が損傷した作品もあった。
- ◇入口右小部屋の彫刻作品 3 点が落下転倒し損傷した。
- ◇鉄筋と鉄骨部分の繋ぎ目が破断し，金属製の板が落下した。天井の吸音材が雪のように降り，展示室全体が白くなった。また，空調の吹き出し口や非常出口用の蛍光灯が落下した。

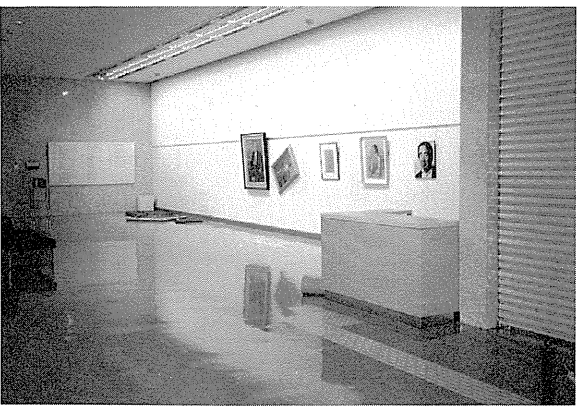
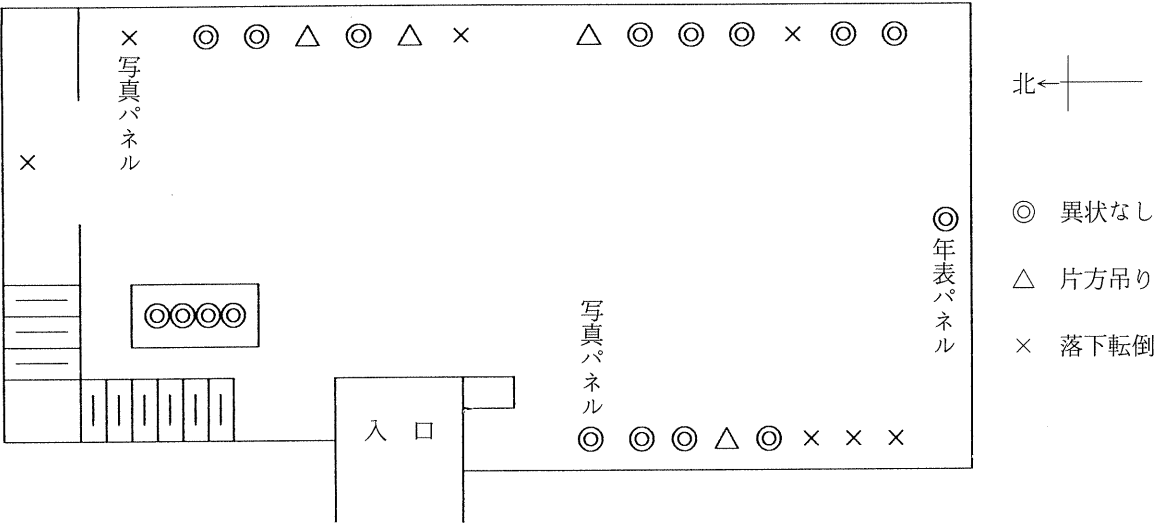


場 所	東館 1 階小磯良平記念室	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	231.4㎡ 4 m	壁 面	展示面クロス貼り，一部赤色大理石貼り
床 面	クッションシート貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	小磯良平展Ⅳ（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	1	1	0	0
絵 画	2 4	5	4	0
版 画	0	0	0	0
計	2 5	6	4	0

状態

- ◇ピクチャーレールから展示金具等が外れて，作品が落下したり片方吊りになった。しかし，額縁が作品を守り無事であった。
- ◇展示室の北側に展示していた彫刻が落下転倒した。
- ◇2 階への階段付近の天井の対流防止ガラスが破損落下した。

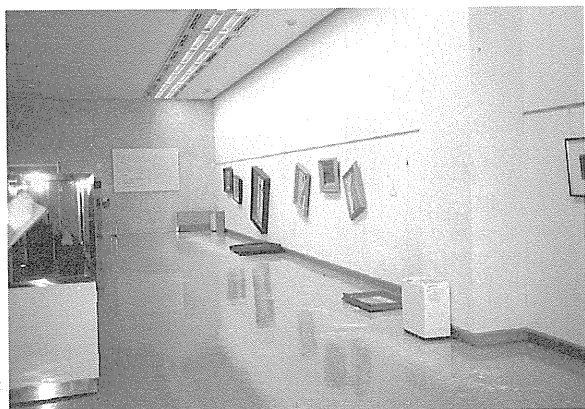
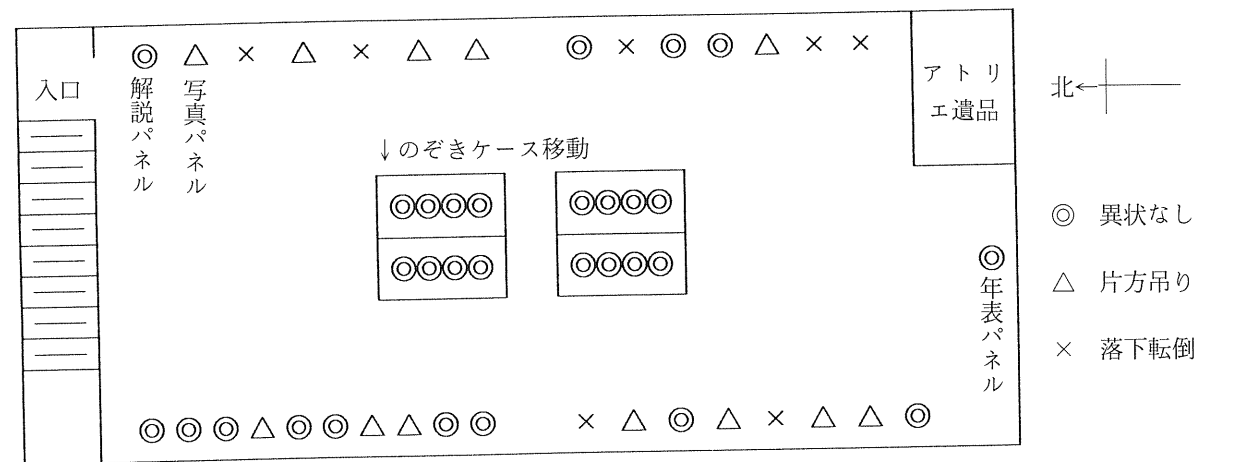


場 所	東館 2 階 金山平三記念室	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	243.6㎡ 4 m	壁 面	展示面クロス貼り
床 面	クッションシート貼り	天 井	石膏ボードによる釣り天井

開催展覧会名	金山平三展Ⅳ（常設）			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	0	0	0	0
絵 画	3 0	7	1 2	0
版 画	0	0	0	0
計	3 0	7	1 2	0

状態

- ◇ピクチャーレールから展示金具等が外れて、作品が落下したり片方吊りになった。しかし、額縁が作品を守り無事であった。
- ◇中央のぞきケースが北西に約 1 m ずれたが、陳列中の資料は無事であった。

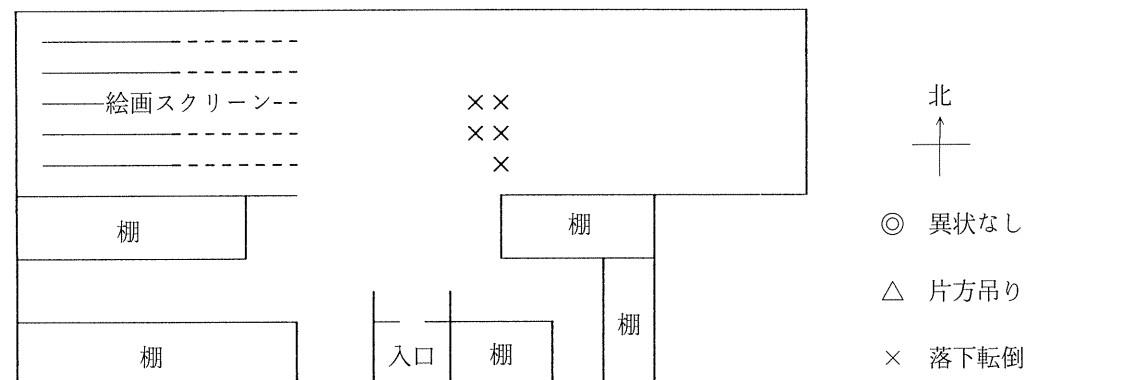


場 所	本館地下 1 階 収蔵庫示室	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	332.6㎡ 3 m	壁 面	板貼り，一部コンクリート仕上げ
床 面	ピータイル貼り	天 井	ペンキ塗仕上げ

	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	—	5	0	3
絵 画	—	0	0	0
版 画	—	0	0	0
計	—	5	0	3

状態

- ◇収蔵庫の一部分の上が人工庭園になっており、その部分より少し雨もりがあったが、作品等への影響はなかった。
- ◇等身大のブロンズ作品が他の小さな作品の上へ転倒し損傷を与えた。

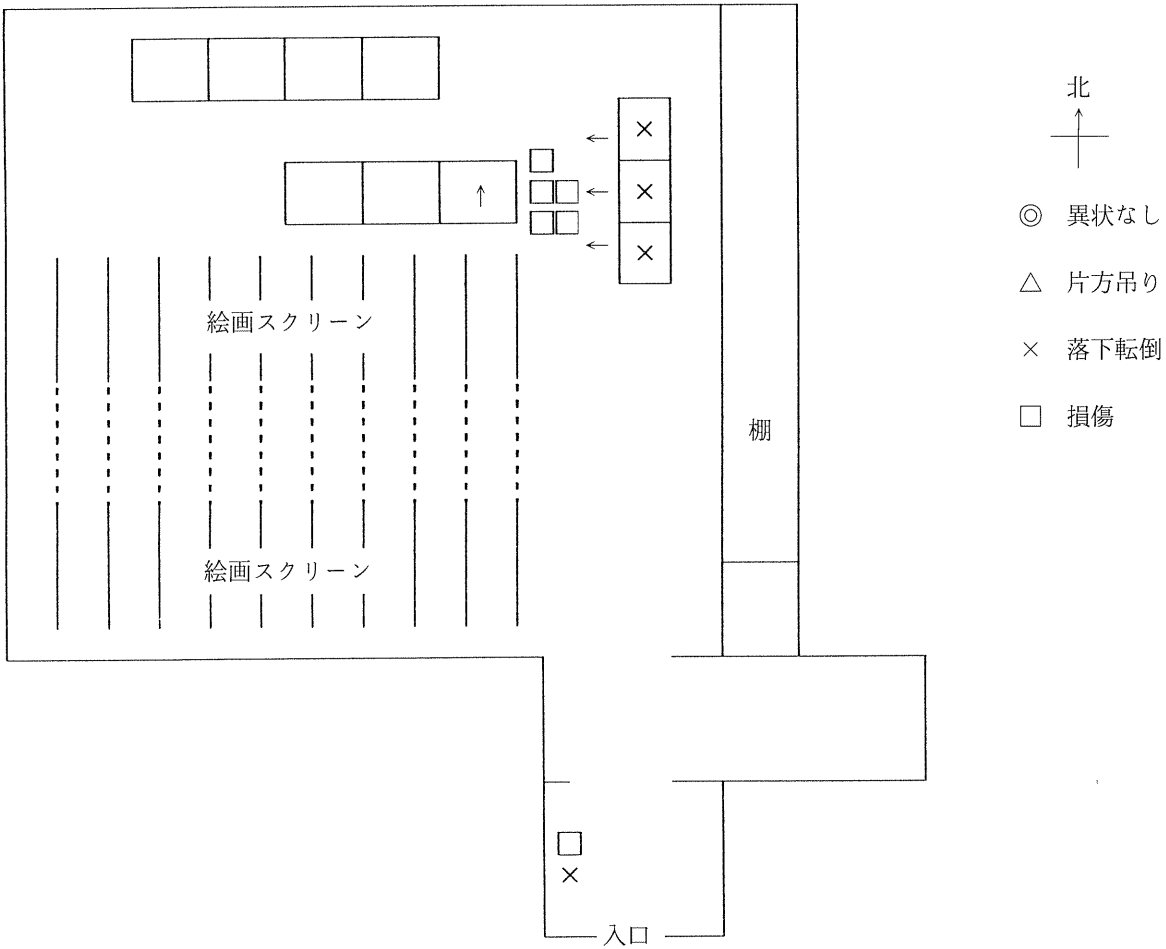


場 所	西館地下1階収蔵庫示室	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	321.8㎡ 5 m	壁 面	板貼り，一部コンクリート仕上げ
床 面	ビニラス系タイル貼り	天 井	板貼り，一部ペンキ塗仕上げ

	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	－	1	0	2
絵 画	－	0	0	5
版 画	－	0	0	0
計	－	1	0	7

状態

- ◇収蔵庫内の建物損傷はなし。収蔵庫入口付近で雨水の浸透あり。
- ◇大理石の彫刻作品が転倒して隣に収蔵していた大理石の彫刻作品に当たり双方が損傷する。
- ◇版画作品の保管ケースの転倒により，保管中の絵画作品に損傷を与えた。
- ◇版画作品の保管ケースが転倒したが，中の作品はマット仕立での保管のため版画作品の損傷はなかった。
- ◇落下しなかったが，空調の噴き出し口のルーバーが少し動いていた。
- ◇吊り下げ型の絵画用スクリーンラックは少し動いていたが，絵画作品の落下等による損傷はなかった。



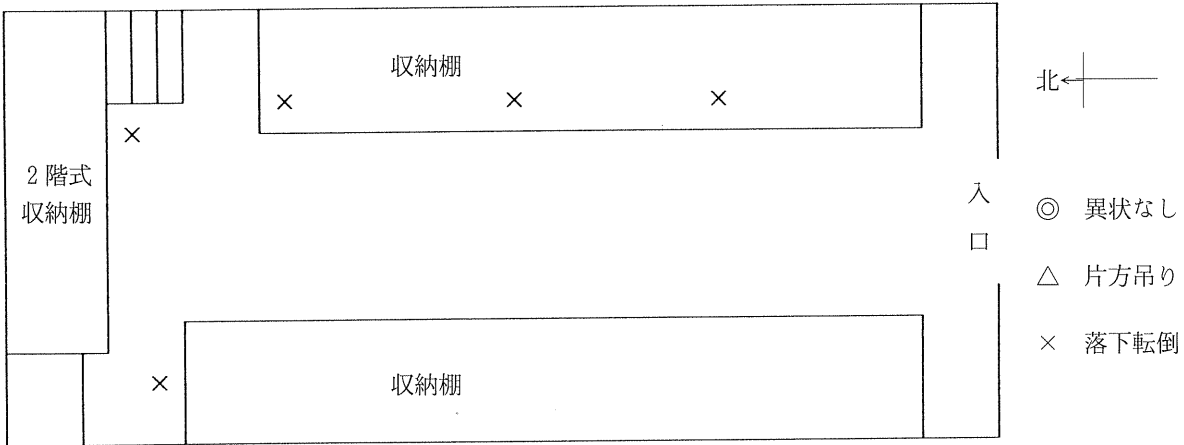
※写真はP.26を参照

場 所	東館地下1階収蔵庫	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	165.3㎡ 4 m	壁 面	木貼り（ギャラリーボード）
床 面	木貼り	天 井	木貼り（ギャラリーボード）

	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	－	2	0	1
絵 画	－	3	0	6
版 画	－	0	0	0
計	－	5	0	7

状態

- ◇収蔵庫本体には異常なし。
- ◇彫刻2点が転倒し，その内1点に軽い損傷があった。
- ◇絵画作品については，棚収蔵していたもので棚にもたれさせて置いていたものが倒れ掛かり，作品の角で他の作品にキズを付けた。

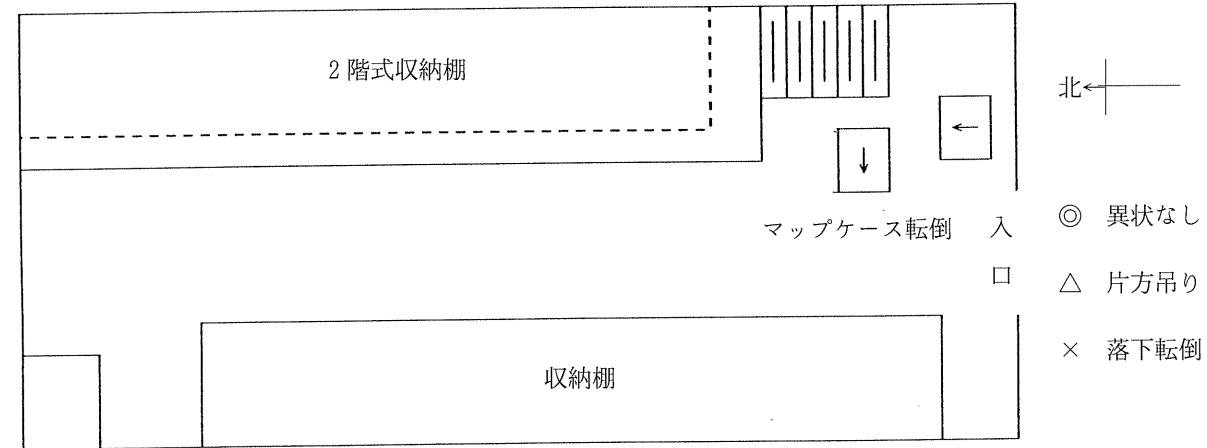


場 所	東館地下2階収蔵庫	構 造	鉄筋コンクリート
広さ・天井高	160.0㎡ 4 m	壁 面	木貼り（ギャラリーボード）
床 面	木貼り	天 井	木貼り（ギャラリーボード）

	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	—	0	0	0
絵 画	—	0	0	0
版 画	—	0	0	0
計	—	0	0	0

状態

- ◇収蔵庫本体には異常なし。
- ◇デッサン作品を収納しているマップケース4段組の3基がいずれも引き出しが前に乗り出し倒れたが、作品はマット装で保管のため異常なし。



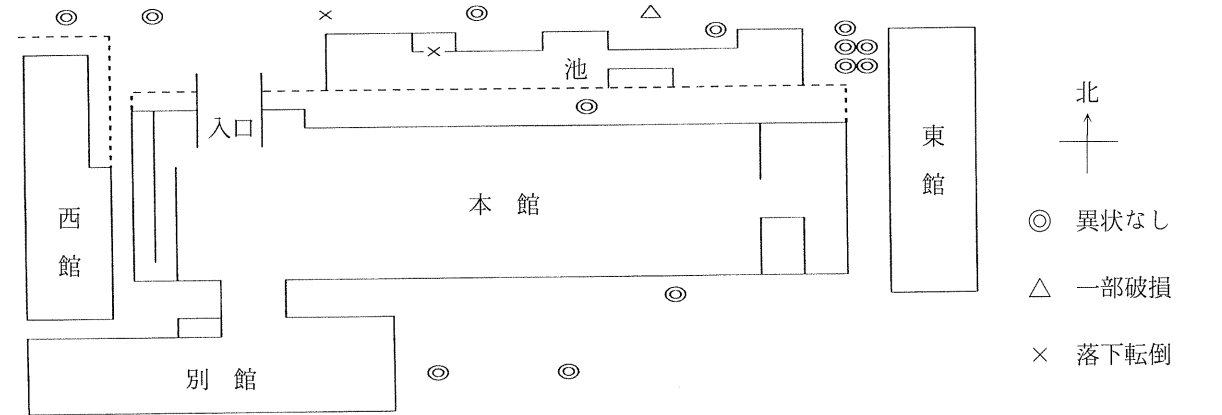
※写真はP.26を参照

場 所	別館1階～5階・ピロティ・正面入口（本館1階部分）・庭園（野外展示）
構 造	鉄筋コンクリート（別館1階～5階）

開催展覧会名	屋外展示			
	展 示 作 品	落 下 転 倒 作 品	宙 吊 作 品	損 傷 作 品
彫 刻	1 2	3	0	2
絵 画	0	0	0	0
版 画	0	0	0	0
計	1 2	3	0	2

状態

- ◇屋外展示作品の御影石が倒れて折れる。また、大きな作品に着いている小さなブロンズの根元が折れた。転倒して池の中に落ちた作品は、池の水により大きな損傷はなかった。
- ◇正面入口は、東へ傾き入口の扉が3枚はずれて倒れた。
- ◇2階へのスロープ西側壁が約2×3mはがれ落ちた。
- ◇西館北側の植え込み部分が約50cm深さ広さ1×20mが陥没した。
- ◇西館西側の植え込み部分が同じように陥没し、雨水受け升と樋がはずれ地下室に水が少し流れ込んだ。



抜き刷り

美術館ニュース ピロティ 号外

美術館ニュース ピロティ No.94

平成6年度年報

平成7年1月27日発行

兵庫県立近代美術館ニュース

ピロティ 号外

兵庫県南部地震による臨時休館について

新聞・ラジオ等で地震災害について繰り返し伝えられているとおり、去る1月17日（火）早朝、淡路島北部を震源とする「兵庫県南部地震」が発生し、神戸・阪神を中心とする地域に甚大な被害を及ぼしました。被災者の方々には、心よりお見舞い申し上げます。

この地震により、兵庫県立近代美術館も、本館・西館・東館の3棟のうち本館に大きな被害をうけました。本館2階部分（特別展示室）は、建物自体が東側で南に大きく横ズレし、接合部分が外れれば落下のおそれもあり、危険な状態です。また、1階部分（彫刻室）は鉄骨柱が南に傾き、ガラス壁や出入口の扉は全壊してしまいました。残りの2棟については、西館で接合部分や展示室の天井等に若干の被害がありましたが、幸い東館は、ほとんど被害がありませんでした。

なお、常設展示の陳列作品については、倒れたり落下したりして散乱していましたが、思いのほか被害が少なくてすみ、彫刻7点の破損と絵画10点の額縁等が一部破損する程度でした。

このような当館の被害状況から、本館等の改修について、現在、鋭意努めていますが、建物の改修期間や交通事情などを考慮しまして、当面の措置として、本年3月31日まで臨時休館することにいたしました。その間下記の諸事業について、誠に残念ですが中止させていただきます。

関係者各位には大変ご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

休館で中止となる事業

「ルネ・マグリット」展（1／28～4／9開催予定）および常設展示

美友会の各種行事

ミュージアム・ボランティア活動

ボランティア養成講座

絵画教室（平成6年度後期）

その他展覧会に関連する行事

兵庫県立近代美術館

神戸市灘区原田通3－8－30 ☎078－801－1591

— 兵庫県立近代美術館 美友会より —

美友会では会員各位に安否確認をお願いいたしております。

兵庫県南部地震で被災された美友会会員の方は、近代美術館美友会☎078－801－1591まで

安否をお知らせください。特に地震により避難されている方は、連絡先をお知らせください。

震災現場からの報告

平成7年1月17日未明、関西を襲った兵庫県南部地震は、兵庫県立近代美術館にも大きな被害を与えた。と言うより、建物、作品が受けたダメージという点では、当館が最も深刻な被害者であった。直下型のこうした激震を体験した美術館も数少ないと思われ、また各方面から被害の実状に関する問い合わせや気使いが届いているので、とりあえずこの誌面を借りて被害の報告とこれからのスケジュール等をお知らせしたい。

1月17日の状況

今年は1月16日が成人の日の振り替え休日にあたり、月曜であるが開館して、17日の火曜が休館日になっていた。美術館の方は、翌週から始まる「ルネ・マグリット展」の開催へ向けて、本館2階の特別展示室の会場構成に入る矢先でもあった。したがって、当日実際に作品が展示されていたのは、常設展の6つの室のみである。具体的には彫刻58点、絵画97点、版画67点の総計222点の作品が、西館の版画室、絵画・企画室、現代美術室、東館の小磯良平記念室、金山平三記念室ならびに本館1階の彫刻室に展示されていたのである。



本館1階 彫刻展示室



本館1階 ピロティ

震災直後——その実見録

地震の発生から約半時間後、美術館に駆けつけた私自身の眼にした光景はすさまじいものであった。本館1階の彫刻展示室は、南北の両壁面がガラスで構成され、通りからも展示室内を見透かすことのできる「ストリート・ミュージアム」的な機能を持ち、当館の特色のひとつとなっていた。この両面のガラスがほぼ9割方破損し、展示室の内外にガラスの破片が散乱していた。さらに建物正面の大扉が倒壊し、美術館がまるで爆撃を受けたような観であ

ったが、破れずに残っているガラス面がまだ存在していることの方が不思議だった。

展示していた彫刻の約半数が、台座から転落したり、あるいは台座ごと転倒して床に転がっていた。大方の作品が転倒したのではないかと危惧したがナウム・ガボの「垂直の構成」やパーバラ・ヘップワースの「曲がった形」、三島喜美代の陶作品「Newspaper」などが若干動いたとはいえ、そのままの状態を保っていたことは驚きだった。特にガボの「垂直の構成」など、形態的には最も危ういと思われる作品が転倒をまぬがれていたことは、これからの彫刻と台座の関係を調べる上で大きな参考となるだろう。

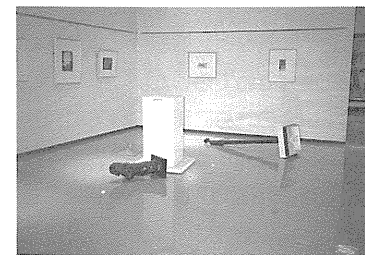
屋外では入口近くに設置されていた最上寿之の石彫がまっ二つに割れ、崩壊していたが、ザッキン、ヘンリー・ムーアや新宮晋らの作品には異常がなかった。

とりあえず、各展示室を巡回してまわったが、西館3階の版画室の状況も

惨憺たるものであった。この部屋では、斜面台を用いた当館独自の展示法で版画を展示していたが、その斜面台そのものや、カバーのガラス板が軒並み破損されていた。2階と1階の展示室はそれほど壊滅的な状況でなく、作品に関しても額の破損のみであった。

東館には、電気系統の断絶によりしばらくは館内に入ることすらできなかった。数日後、恐る恐る足を踏み入れた小磯良平、金山平三の記念室は、若干の作品が床面に落下したり、宙吊りになっているのみで、作品そのものの損傷はまったく無かった。また東館自体が、1988年に竣工した最も新しい建物であっただけに、ほとんど無傷といってよい状態でこの異変を乗り切ることができたのだろう。

その晩は、電気、水道、ガスが遮断された中で美術館で眠れぬ一夜を過ごしたが、その夜の満月の輝きは私にとっても生涯忘れ得ぬ思い出となるだろう。



西館1階 現代美術室

被害の状況——作品

当館の常設展示の中心が、近代彫刻のコレクションであるため、被害は彫刻に集中した観がある。落下、転倒した彫刻の内、22点の作品が何らかのダメージを受けた。この場合も、大理石像の破損から、本体と台座を固定するボルトの歪みまで、その程度に大きな幅がある。

絵画作品は、藤井二郎ら郷土作家のものと、関口敦仁ら現代美術の作品計11点、版画はマックス・クリンガーとジャック・ヴィヨンの作品計5点、彫刻も含め総計38点の作品が被害を受けたことになる。修復に関しては、各専

門家に見てもらったが、いずれも修復が可能ということであった。その中でも、比較的大きなダメージを受けた作品は次の通りである。

メダルド・ロツソ

「新聞を読む男」1894年、蠟・石膏
ジャン・アルブ

「陽気なトルソ」1965年、ブロンズ
ジュリ・ゴンザレス

「夢・キス」1934年頃、ブロンズ
ルイーズ・ネヴェルスン

「セルフポートレート」1964年、木
北村正信

「つぼみ」1932年、大理石

マックス・クリンガー

版画集『死についてI』より

「子供」1889年、エッチング

ジャック・ヴィヨン

版画集『田園詩』より

No25、1954年、リトグラフ

被害の状況——建物

今回の被害で特に目立ったのが、建物の損傷である。村野藤吾の設計による本館は、1970年の竣工で、今年がちょうど25周年目にあたっていた。2階の箱型の展示室を10本の柱で支え、ピロティ(柱で支えられた下の空間)を彫刻展示室とした独特の構成が、大きなダメージを受けた。地震の衝撃で、2階の構造体が全体的に南側に数十センチずれたのである。その余波として

1階の彫刻展示室のガラスが壊れ、展示室内の柱が南に傾くこととなったのである。外見上のダメージは大きい、専門家の調査によると、構造体そのものに損傷は少なく、改修が可能ということであった。

西館は各階の展示部門とホールとのジョイント部分が欠落したが、これは本来別の構造体として、わざと隙間を作っていたためであり、それほど問題の無いダメージである。また東館に関しては、先述したようにほとんど無傷であった。

当面のスケジュール

当初予定していた展覧会の内、1月から4月にかけての「ルネ・マグリット展」、6月から7月にかけての「アンドリュウ・ワイエス展」の開催が見送られることとなった。本館の改修工事を含め、できるだけ早い時期の再開へ向けて努力中である。とりあえずは、8月15日から「戦後文化の軌跡1945～1995」展を、比較的被害の小さかった東館、西館の展示室を用いて開催する予定である。日本の戦後50年の歩みを回顧するこの展覧会は、再びガレキの山の中からの復興に取り組んでいる神戸や阪神間の人々に、大きな勇気と未来への展望を与えてくれることだろう。

中島徳博(館長補佐兼学芸課長)



西館3階 版画展示室

美術品を「まもる」 —震災後の美術品の保全について—

今回の震災は、美術品を一極集中的に保存、管理する美術館という施設が日本各地に急速にひろまった戦後、初めて経験する事態であったとも言える。あらゆる災害における場合と同様、地震にそなえた対策が第一であることは言うまでもないが、実際に地震が起きてしまった後にはどのようにすべきなのだろうか。当館の例を報告するとともに、今後の課題について考えてみたい。

当館の場合、地震の直後に集まった職員がまず行ったのは、展示作品の確認であった。ガラス壁や大扉の壊れた本館1階の彫刻室の展示作品は、余震によるさらなる被害の恐れがあったため、作品の安全性を考えて、とにかく順に収蔵庫に作品を収納していった。この移動の過程で、大きな破損についてはだいたいの被害状況を把握することができた。

地震から1～2カ月の間は、ダメージを受けた作品の修復よりも、個々の作品の状態を把握するための調査、記録写真の撮影、そして作品の安全を確保するための応急策を急ぐ必要がある。慎重な対応が要求される修復活動は、むしろ状況が落ち着いてから綿密な調査を経て行われるべきである。

震災後1カ月程は大きな余震も心配され、作品のダメージをひろげないため、また新たな被害をださないためにすべきことは山のようにあった。版画作品のケースは引き出しごとびださないように止める。平面作品のスクリーンは紐で固定する。さらに本館については、建物の損傷がひどかったことから、さらに作品を移す作業を行った。

こういった作業は、次第に明らかになる建物・作品の被害状況と照らしながら、まさに手探りの中で優先順位を

決め、進めてゆかざるを得なかった。今回の経験をもとに、今後、地震直後の行動の指針を文書化してゆかねばならないだろう。この点について非常に参考となるのが、後述するポール・ゲッティ美術館のスタッフが携えてきた緊急時マニュアルである。

このマニュアルには、地震、火災からテロ、核物質による汚染まで、考えられうる限りのありとあらゆる緊急事態について、その予防策、事後の対応策が示されている。しかも、その文章はすべて「何々をせよ」と、簡潔に行動を指し示す表現で統一されている。

今回の地震に際しては多くの人々がボランティアとして被災地で活動を行い、注目を集めた。美術・文化財の分野とて例外ではなく、当館にも、特に保存・修復の分野で内外から専門家の支援の手が差し伸べられた。

地震後間もないうちから、京都や東京の修復家の方々、山岸鋳金工房のスタッフなどが、被害状況の調査と応急処置のため駆けつけてくださった。このうち京都のあとりゑすぎうらさんには、当館担当者との協議の上、特に破損のひどい油彩画作品について、損傷がこれ以上ひろがらないよう、応急の処置をしていただいた。

2月初旬にはアメリカからポール・ゲッティ美術館の修復技術者が来日、

文化庁および全国美術館会議のスタッフとともに当館へ。ゲッティ美術館はロサンゼルス郊外という地震多発地帯にあって先進的な地震対策で知られており、このたびの地震に際しても国立西洋美術館を通じていち早く協力の申し出があった。今回来館したスタッフは立体の専門家であったので、当館では展示中転倒、損傷をうけた立体作品について、緩衝材の施し方や固定の仕方など当面の保管の方法についてアドバイスを受けた。

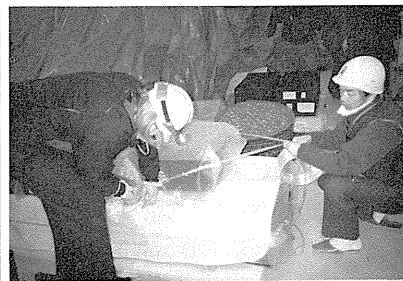
美術館どうしが連携し、いざという時には互いに技術や人材を提供する組織作りもこれを機に考えてゆく必要があるだろう。そして今回の経験で、梱包資材の確保など活動に直接かかわる備えはもとより、スタッフの移動手段や宿泊の問題など、課題は多岐に渡ることをあらためて感じた。

作品保全のために駆けつけてくれたスタッフに共通するのは、美術品が社会に共通の財産であるという認識であった。今回の震災は、美術館にかかわるわたしたちに対し、美術品を何のために、何故まもるのかという本質的な問いをつきつけてもいるだろう。

村上亮（当館保存・展示担当課長）＋
江上ゆか（当館学芸員）



油彩作品に応急の手当てを施す
あとりゑすぎうらのスタッフ



ゲッティ美術館のスタッフの活動の様子

（平成7年5月20日発行・平成6年度年度報より）

報告 阪神大震災による被害状況と美術館活動

平成7年1月17日未明、神戸・阪神地域を突然襲った兵庫県南部地震により、当館も大きな被害を被った。建物は大きく損壊し、すべての展示活動の中止を余儀なくされた。未曾有の大地震であっただけに、損壊した建物が美術作品に直接被害を及ぼすこと、あるいは被災直後の盗難防止など、思いもかけない問題に直面した。すでにその一端は当館ニュース「ピロティ」94号（4月1日号）で報告済みだが、ここではさらに詳細な被害状況を報告し、今後の美術館における地震対策の一助としたい。

建物の被害

昭和45年に建設された本館の被害が特に甚大であった。本館は、南北各5本の大きな支柱に箱（特別展示室）が載った構造だが、これを接合していたボルト（1支柱8本、直径24ミリ）が地震によって切断され、建物の東側が約45センチ南側に向かってねじれ、倒壊寸前の危険な状態となった。これにともない、1階の彫刻室は2階の床を支える鉄骨柱が南側に大きく傾き、ガラス壁および出入口の大扉が全壊した。2階の特別展示室は、天井の亚克力板の落下と入口の鉄製の扉がはずれて転倒したほかは、展覧会の直前で、いわばからっぽの状態であったためほとんど被害はなかった。また1階と2階をつなぐスロープの壁は、縦2メートル、幅24メートルにわたって落下した。

昭和57年建設の西館は北側と南側の接合部分が破損したが、建物本体には大きな被害がなかった。そのほかの被害として、2階の絵画企画室中央に備え付けてあった大きな展示ケースが南東方向に30センチ程度ずれたこと、天井の通風口のカバー、排煙装置のカバーなどが若干落下した程度である。

昭和63年建設の東館はほとんど被害がなかった。

美術作品の被害

地震当日、当館では屋外彫刻を含め222点の作品を展示していたが、このうち63点の作品が落下転倒し、38点の作品が何らかの損傷を被った。これらの作品をジャンルごとに分類し、それぞれ館内のどこで被災したかを示したものが次の表である。

※表はP. 4～P. 15に記載

当然のことながら、彫刻の落下転倒率、損傷率が高い。多くの作品は台座の上に置かれただけで、その台座は床に固定されておらず、何の耐震対策もとっていなかったからである。主要作品の被害状況は次のとおりである。

ジャン・アルプ「陽気なトルソ」（ブロンズ）

台座から転落し、床に落ちた衝撃で中央部に亀裂が生じた。

メダルド・ロッソ「新聞を読む男」（石膏・ワックス）

台座から転落し、床に落ちた衝撃で石膏とワックスでできた本体の一部が砕け散った。

ルイーズ・ネヴェルスン「セルフ・ポートレイト」（木）

壁際に積み重ねた24個の箱が崩れ落ちて、それぞれ割れたり釘がはずれたりして変形をきたした。

ジム・ダイン「植物が扇風機になる」（ブロンズ）

5点組の1点が台座から転落し、扇風機の羽の一枚が切断された。

ジュリ・ゴンサレス「夢・キス」（ブロンズ）

すぐ脇に立っていた舟越保武「病醜のダミアン」（ブロンズ）が倒れかかり、押し潰されるかたち

となり、全体に変形をきたし、一部が切断された。

北村正信「つぼみ」（大理石）

倒れた衝撃で頭部が破損し、指が一本折れた。この作品は隣に立っていた同じ作者の「春の作」

（大理石）に倒れかかり、肘の部分を破壊した。

最上寿之「イキハ・ヨイヨイ・カエリハ・コワイ」（花崗岩・大沢石）

屋外庭園の土中に埋め込むように設置してあったが、下から突き上げられて飛び出し、板状の石が

まっぶたつに割れた。

展示中の絵画は、すべて油彩画であった。30点の作品が吊りワイヤーからはずれて落下し、床に伏せた状態になった。このうち落下の衝撃で18点の額縁が破損したが、画面はいずれも無傷だった。もっとも重量のある須田国太郎「工場地帯」のみ、ワイヤーを切って落下した。このほかに、片方のワイヤーのみはずれて宙吊りになった作品が21点あったが、とくに画面に異状はなかった。画面の損傷事故は、展示中ではなく、むしろ収蔵庫内で発生した。尾田竜と藤井二郎の油彩画5点は寄贈されて日が浅く、また、額装の準備中であったため、収蔵庫内での収納場所が決まっていなかった。そこで5点を重ねて仮置きしていたところへ、4段重ねの版画の収納ケース（スチール製のマップケース）が崩れて落下し、4点の画面に裂傷を負わせた。

版画の損傷作品は5点で、数は少なく、被害は最小だったかに見える。しかし、修復の可能性を考慮すれば、その被害は甚大だったといわざるをえない。5点の作品はいずれも版画室の斜面台に展示されていたもので、台にはまっていたガラスがこなごなに割れ、細かい破片が作品の画面上を滑り落ちた。この時、画面を傷つけるとともに、一部でエッチングのインクを削り取ってしまった。細かいガラス片は紙の繊維の間にとどまり、除去しがたい。また、版画室では天井の一部が壊れ、天井裏に詰めてあった耐火材の粉末が展示室一面に撒き散らされた。これが、ガラスの割れたケース内の版画の上にも降り、ガラス片同様に繊維の間にとどまっている。被害を受けた作品は、マックス・クリンガーのエッチング4点とジャック・ヴィヨンのリトグラフ1点である。

被災直後の処置

地震当日に美術館に出勤できた職員は7名（うち学芸員は3名）であった。夕刻までの数時間に、これらの職

員で運搬可能な小さな彫刻作品を収蔵庫に収めた。翌日からは出勤する職員も若干増え、3日間で（1月20日までに）、6つの常設展示室に展示中だったほぼすべての作品を撤収した。ただし、この時期には本館のエレベーターが使用不能だったため、重い彫刻を地階の収蔵庫に下ろすことができず、建物の一遇にまとめて保管した。建物自体が損壊していたため、作品を隠すことで盗難に備えた。余震による二次災害にも備える必要があり、作業時間は限られた。

また、収蔵庫内の整理も平行して進めた。棚とスクリーンに収蔵していた絵画作品は転倒落下せず無傷であったが、彫刻は8点が転倒しており、これらを元に戻しつつ、展示室から撤収した作品を安全に収納するスペースの確保に追われた。転倒した版画の収納ケースの復旧には、予想外の労力と時間が必要だった。彫刻は壁際に寄せて縛り、可動式のスクリーンは余震で暴走しない程度に固定した。

震災の翌週からは、作品の被害状況の調査に入った。事務室・研究室・インフォメーションコーナー・講堂・実技室などの後片付けも行いつつの作業であったため、思うようにははかどらなかったが、2月8日までに被害の全貌を把握することができた。これと平行して、それぞれのジャンルの修復専門家に被害作品を実際に見ていただき、修復の可能性について調査を進めた。地震からほぼ一カ月後には、修復の手配までこぎつけることができた。

美術館活動の停止と再開

開催直前であった特別展「ルネ・マグリット展」（1月28日～4月9日）とすべての常設展示は被災の確認と同時に中止を決定し、3月31日まで臨時休館とした。また、絵画教室、ミュージアム・マンスリー、ミュージアム・ボランティア、美友会など普及活動の中止も余儀なくされ、1月27日に「ピロティ」号外を発行して、これらの情報を広報した。その後、翌年度の開催予定であった特別展のうち、「兵庫の美術家」（4月20日～5月7日）は平成8年1月まで延期することとしたが、「アンドリュウ・ワイエス展」（6月10日～7月30日）は中止を決定した。

3月に入って、当館では展覧会活動ができないが、美術館の使命として出来る限り早く展覧会活動を再開するために、毎年秋に開催してきた移動美術館を春季（4月23日～5月28日）にも3カ所で実施するとともに、震災で被害を受けた人たちに心のうるおいと安らぎの場を提供できればと、地震による被害の大きかった神戸市内（板宿、長田、御影地区）の兵庫銀行の3支店を会場に小規模な館蔵品展の開催を決め（4月4日～5月1日）、準備を進めた。また震災により、やむを得ず休館となっていた阪神間の5つの美術館・博物館とともに、それぞれの館が所蔵する代表作を持ち寄り、「日本近代絵画の名作」展の開催を決め（5月17日～6月11日）、準備を進めた。当館での展覧会活動は、建物の復旧計画をにらみながら、西館・東館は8月15日、本館は11月3日から再開することにした。

当館が受けた救援活動

1月31日に山岸鋳金工房の高橋裕二氏と黒川弘毅氏が来館、彫刻作品の被害調査を受け、助言をいただいた。

また2月3日にあとりゑすぎうらの森川隆氏と横田雅人氏が来館、絵画作品の被害状況の確認を行うとともに、損傷した油彩画に応急処置を施してもらった。

2月6日・8日、文化庁・国立美術館・全国美術館会議合同の緊急調査団が修復専門家をともなって来館した。これにはアメリカのポール・ゲッティ美術館の美術品保存部長ジェリー・ボダニー氏と元部長バーバラ・ロバーツ氏も参加されていた。そもそも同調査団はポール・ゲッティ美術館からの強い要請で結成されたものであった。

当館では被害を受けた油彩画はすでに応急処置を済ませており、特に修復作業は行われなかったが、作品収蔵庫に避難させたあとの作品管理に関して有益な助言を得ることができた。

2月22日に山領絵画修復工房の山領まり氏と斎藤敦氏が来館、版画作品の被害状況の確認と助言をいただいた。

これより前の2月17日、兵庫県教育委員会は、阪神・淡路大震災被災文化財等救援委員会（文化庁・東京国立文化財研究所・全国美術館会議など）と合同で、被災した個人所蔵家等からの要請に応じ、費用負担を求めないで、文化財等を緊急に保存、応急修理及び一時保管等の措置をする「文化財レスキュー事業」を開始した。当館学芸員もこれに参画し、20日には芦屋市の中山岩太の旧写真スタジオから貴重な作品と資料を救出した。

3月に入って、本館の復旧工事の間、地階にある収蔵庫から作品を撤去しなければならなくなったことから、当館所蔵の作品を疎開させる必要が生じた。そこで前述の「文化財レスキュー事業」の一環として、同救援委員会の手を借り、京都国立近代美術館へ作品を移動させ、一時的な保管をお願いすることとした。まず、全国美術館会議を通じて各館学芸員の協力を依頼し、3月23日・24日の両日に延べ13人の協力を得て197点の作品を梱包、27日には京都国立近代美術館に無事搬入することができた。

また当館が震災で住む家を失い厳しい避難所生活を余儀なくされている多くの人々に、心の傷をいやしてもらうために、全国美術館会議を通じて協力を呼びかけた「美術絵ハガキ配布事業」には、全国の美術館から3月20日までに約12万枚の絵ハガキが寄せられた。これらは、すぐさま兵庫県災害対策本部を通して、神戸市、芦屋市、西宮市の各避難所に配布した。

最後に当館の被災に対し、全国の個人、団体、美術館から多数の激励、御見舞い、そして多額の支援金が寄せられたことを付記して、感謝いたします。



本館外観



本館入口



本館出口



彫刻室（本館1階）



彫刻室（本館1階）



彫刻室（本館1階）



本館前庭
（最上寿之「イキハ・ヨイヨイ・カエリハ・コワイ」が倒壊した）



版画室（西館3階）



版画室（西館3階）



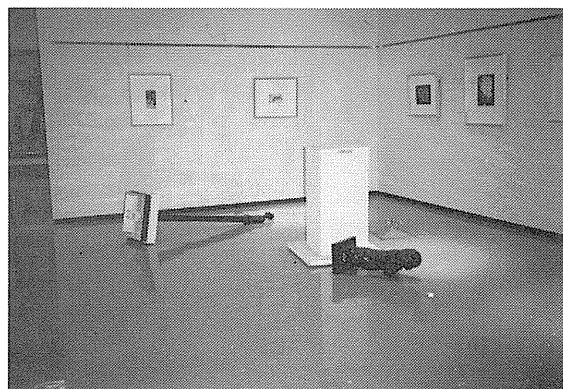
版画室（西館3階）



絵画企画室（西館2階）



金山記念室（東館2階）



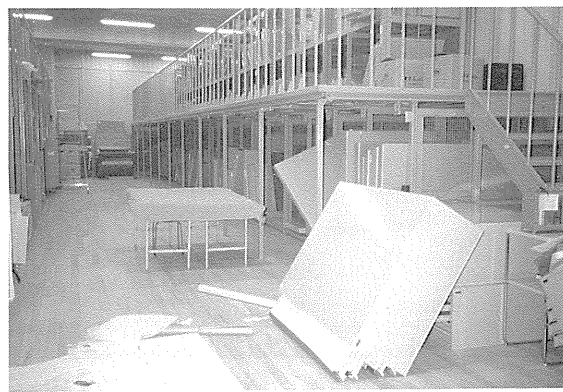
現代美術室（西館1階）



小磯記念室（東館1階）



収蔵庫（西館地階）

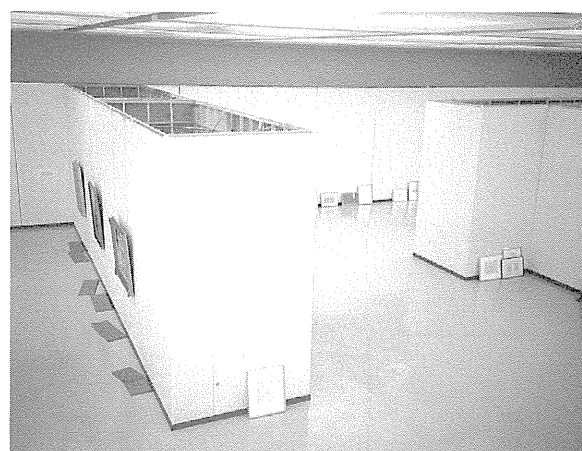


収蔵庫（東館地下2階）

改善した点

- 展示パネルの転倒を防止するため、独立・自立の移動可能展示パネルを転倒しづらいボックス型（箱組）壁面に改善した。（写真①）
- 平面の絵画作品等が展示パネルやピクチャーレールから展示金具等のワイヤーが外れて落下転倒するのを防ぐため、S金具をボルト締め付け構造に改良し、ストッパー付フックを採用した。（写真②）また、横揺れ防止のため、吊り下げワイヤーをU型ステップルで壁に打ち付けた。
- 立体の彫刻作品等が展示台から落下転倒するのを防ぐために作品を台座と連結したり、展示台の下に重心を低くするために重りを入れた。また、クッション付きアジャストを採用した。（写真③）
- 版画・素描作品等の収納ケースの転倒を防止するため、各段を鉄板で連結（写真④）し、引き出しが前に飛び出さないように常に施錠をする。

①



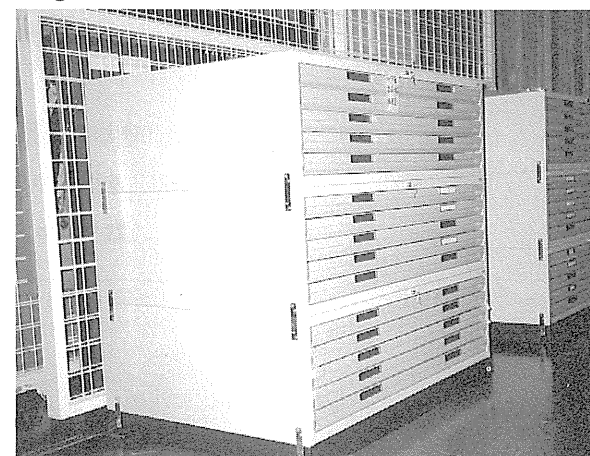
②



③



④



平成8年3月31日発行

発行 兵庫県立近代美術館

657 神戸市灘区原田通3-8-30

☎078-801-1591

印刷 光印刷株式会社

650 神戸市中央区下山手通2-16-12

☎078-321-1551